

今週（10月18日から10月22日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、新積み期が本格的にスタートした。本積み期のマクロ加算残高に係る基準比率が前積み期から2%低下したことを受け（15.0%→13.0%）、先週下落したレートを引き継ぐ形で、落ち着いたスタートとなった。その一方で、地銀を中心とした調達ニーズは根強く、無担保コールO/N物加重平均レートは18日▲0.039%、19日▲0.038%、20日▲0.036%、21日▲0.031%と日を追うごとに上昇していった。週末の22日も、3日間の積み要因が寄与する形で地銀勢を中心に取上がる動きが加速した。ターム物については引き続きレートは高止まりしており、▲0.02%から▲0.001%での出合いが中心となった。日銀当座預金残高は540兆円台前半からスタートした。20日の短国1Y物や10Y債の発行を受け、530兆円台後半まで減少したものの、その後は国債買入オペが実施されたことで再度540兆円台前半まで増加した。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.105～▲0.090%程度の水準で推移した。

SC個別銘柄では、5年140～149、10年350～364、20年170～178、30年60～71、40年9～14などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、3回の入札が実施された。短国買入オペの少額実施が続いているうえに、今週はオペの実施が見送られたことから、在庫保有に慎重な市場参加者も多く、1Yゾーンと6Mゾーンは横ばいからやや軟調な結果となった。その一方で、堅調な実需が見られる3M物は、底堅く推移した。

19日に実施された1Y物の入札は、やや弱めの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットではやや堅調に推移した。

21日に実施された6M物の入札は、小甘い結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットではやや堅調な推移となった。

22日に実施された3M物の入札は、無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、底堅く推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、20日、25日の発行集中日があり、機械・鉄鋼・卸売業態で大型発行があった。週間総額は発行超となっており、市場残高は19日には24兆円台に到達した。発行レートについては、概ねマイナス圏で決着している。発行頻度の多い銘柄や期内の短い銘柄は浅いマイナス圏で推移する一方、稀少銘柄は12月末越えを中心に強いビッドが見られた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
10/18 (月)	29,025.46	0.090	114.27	△ 0.039	△ 0.097	5,418,500
10/19 (火)	29,215.52	0.085	114.14	△ 0.038	△ 0.097	5,422,600
10/20 (水)	29,255.55	0.090	114.55	△ 0.036	△ 0.101	5,386,200
10/21 (木)	28,708.58	0.085	114.26	△ 0.031	△ 0.101	5,396,300
10/22 (金)	28,804.85	0.090	114.02	△ 0.028	△ 0.096	5,403,100

# 来週（10月25日から10月29日）の短期金融市場動向

## ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
10/25 (月)	8月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)	流動性供給 5,000億円 10/26発行		
10/26 (火)	9月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)			9月の米新築一戸建て販売件数 8月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 10月の米CB消費者信頼感指数
10/27 (水)	日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00～)	2Y 30,000億円 11/1発行		9月の米耐久財新規受注
10/28 (木)	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00～) 日銀総裁定例会見(15:30) 経済・物価情勢の展望 9月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50)			ECB定例理事会(金融政策発表) 7-9月期の米GDP速報値
10/29 (金)	9月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 9月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 10月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 9月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 9月の住宅着工統計(国土交通省 14:00) 10月の消費動向調査(内閣府 14:00)	TB3M 50,000億円 11/1発行	交付税借入 11,000億円 11/10借入	9月の米個人所得・消費支出 10月のシカゴPM景況感指数 7-9月期のユーロ圏GDP1次速報 10月のユーロ圏消費者物価指数速報値

## ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
10/25 (月)	▲ 600	8,600	8,000	CP買入 社債買入 国債補完	▲ 200 ▲ 300 200	800	500	8,500	TB3M発行▲50000償還52000 TB6M発行▲34500償還24400
10/26 (火)	0	1,000	1,000				0	1,000	流動性供給発行▲5000
10/27 (水)	0	4,000	4,000	全店共通	▲ 2,400		▲ 2,400	1,600	
10/28 (木)	▲ 1,000	2,000	1,000	新型コロナオペ	▲ 47,200		▲ 47,200	▲ 46,200	
10/29 (金)	▲ 1,800	▲ 7,500	▲ 9,300	CP買入		5,000	5,000	▲ 4,300	日本郵政株の公募売り出し（第3次）
週間合計	▲ 3,400	8,100	4,700	—	▲ 49,900	5,800	▲ 44,100	▲ 39,400	

10/25は日銀予想、10/26以降は当社予想

## ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、引き続き調達意欲の強い展開が予想される。レポ市場は、GC T/Nは、引き続き投資家の資金調達が継続すると見込まれるが、キャッシュ潰しの資金運用の動きも入ると思われることから、▲0.095～▲0.090%のレンジでの推移を予想する。短国市場は、29日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、26日に実施が予想される短国買入オペのオファー額や、実施の有無にも注目したい。CP市場は、26日にCP等買入オペが5,000億円予定されている。

主要なイベントは、国内では27日、28日に金融政策決定会合、海外では28日にECB定例理事会、7-9月期の米GDP速報、29日に7-9月期のユーロ圏GDP1次速報、10月のユーロ圏CPI速報値が予定されている。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。